# この休みに本を読もう！〈一般書編〉

- **日本語の本**

## 小学生向け

『**おちゃめなふたご**』ブライトン（佐伯紀美子　訳）

わがままいっぱいに育ったふたごのパットとイザベルは厳しいことで有名のクレア学院に入学する。性格の違いからクラスメイトと対立するがだんだん打ち解けて、クラスメイトとだんだん協力していくようになり、ドタバタの一学期を過ごす話。

『**マジック・ツリーハウス**』シリーズ　メアリー・ポープ・オズボーン

ある兄弟が魔法のツリーハウスから、あらゆる時代にタイムスリップして、様々な体験をし、冒険するお話。シリーズになっており、ドキドキしながら読めるだけでなく、いろいろな国や時代を知るきっかけにもなります。

## 中学生向け

『**カラフル**』　森絵都

突然目の前に天使が現れて、今から他の人の身体に乗り移りましょう！と言われたら皆さんはどうしますか？中学生「小林真」の身体に入った「ぼく」が、真の家族や友達と関わりながら様々な経験をする不思議な物語です。

『**君たちはどう生きるか**』吉野源三郎

人間としてどう生きれば良いのかを楽しみながら読めます。この本を読むことで、自分がこれから生きていく上でのモットーのようなものをきっと持てるようになると思います。漫画版もあるのでより気軽に読めると思います。おすすめ！！

## 中高生向け

『**R.P.G.**』宮部みゆき

ある一家の父親が殺害される。捜査を進めるうちにその父親はオンライン上で疑似家族を作り、父親役をしていたことが分かった。「家族」とは何か、何が「家族」を「家族」たらしめるのかが問われるミステリー。

『**赤毛のアン**』 モンゴメリ

大自然を舞台に、孤児で空想が大好きな女の子アンが周りの人々と関わり合いながら、様々な経験を通して、成長していく物語。アンの世界観に引き込まれていくこと間違いなしです。もちろん、原作を読んでみるのもいいでしょう。

『**かがみの孤城**』 辻村深月

不登校の少女が鏡の中の世界にはいるというファンタジー小説でありながら、最後には伏線がすべて回収され、感動が待ち受けるという本屋大賞１位も獲得した物語。

『**鞄に本だけつめこんで**』 群ようこ

エッセイストの群ようこさんが２４冊の本を面白おかしく紹介している本です。クスっと笑えるお話がたくさん収録されています。

『**機関車先生**』 伊集院静

私たちの周囲には言葉があふれています。もちろん，言葉は今の生活に欠くことのできないもの。一度，言葉がなくなってしまったら，と想像してみてください。どんなに不便なことでしょうか。この物語は、言葉の話せない先生のお話しです。

『**きみが見つける物語**』 シリーズ

十代のための短編小説集です。いろいろなジャンルのたくさんの話に出会える楽しい作品です。気になるテーマから選んでみては。

『きみが見つける物語』スクール編　豊島ミホ　他
『きみが見つける物語』運命の出会い編　角田光代　他
『きみが見つける物語』オトナの話編　大崎善生　他
『きみが見つける物語』休日編　米澤穂信　他
『きみが見つける物語』こわ～い話編　乙一　他
『きみが見つける物語』切ない話編　川島誠　他
『きみが見つける物語』不思議な話編　いしいしんじ　他
『きみが見つける物語』放課後編　橋本紡　他
『きみが見つける物語』友情編　坂本司　他
『きみが見つける物語』恋愛編　梨屋アリエ　他

『**君の膵臓をたべたい**』 住野よる

映画で見たことのある人にも一回は小説で読んでほしい一冊。読み終えた後、今が幸せだと気づかされます。

**『気持ちを整理すると「いいこと」がいっぱい起こる！』** 植西聰

イライラした時にどうやって気持ちを切り替えるのか、人間関係を良いものにするためにはどうするべきかなどが分かりやすく書いてあります。読むと心が少し軽くなる本です。

**『グラスホッパー』** 伊坂幸太郎

とにかくおもしろいミステリー小説。「鈴木」「鯨」「蝉」という 3 人の登場人物が「押し屋」呼ばれる殺し屋を探して交錯する。最後までドキドキが止まらない！

**『ジェノサイド』** 高野和明

人類滅亡の危機をめぐり薬学部大学院生が活躍するサスペンス小説。パンデミックのいまだからこそリアリティを感じながらあっという間に読めてしまう対策です。筆者の丁寧かつ綿密な取材に脱帽です。

**『少女』** 湊かなえ

2 人の少女が「人の死を見たい」と行動するお話です。怖いシーンは少なく読みやすい物語です。衝撃的なラストで何度も読み返したくなります！

**『地下街の雨』** 宮部みゆき

結婚直前になって同僚に婚約破棄された麻子にある女がやってくる。女と麻子は自分たちの似た境遇に意気投合するが、女にはある目的があって…。背筋がぞくっとするような、スカッとするような、読んだ後にもやっとするようないろいろな話が盛り込んである 7 編の短編集。

**『フィナーレを迎えるキミへ』** 咲セリ

生きづらい心の病を抱えた「私」のもとにやってきた、ぼろぼろの体の黒猫。そのいのちの「フィナーレ」をゆっくりと受け入れていくまでをつづった日記です。「自分なんか生きていても…」と思えてしまう人へ。

**『フォルトゥナの瞳』** 百田尚樹

映画化された小説なので、映画を観てからでも楽しめると思います。主人公は「他人の死の運命」が見える。そんな主人公の恋愛を切なく描いたこの作品は映画だけ楽しむのではもったいない。最後のシーンを読めばきっともう一度最初から読みたくなる。

**『武士道シックスティーン』『武士道セブンティーン』『武士道エイティーン』**　誉田哲也

剣道の試合で出会った二人の高校生の物語。性格の違う二人だが、剣道への思いはどちらも強く、お互いの道を突き進んでいく。部活動を頑張る中高生にぜひ読んでもらいたい青春物語です。

**『宝石商リチャード氏の謎鑑定』** 辻村七子

大学生の正義は、ひょんなことから宝石商の外国人リチャードの元でアルバイトを始めます。それぞれの宝石に隠された物語と、正義とリチャードのやり取りがとても面白いです。宝石に関する豆知識も！

**『私の家ではなにも起こらない』**　　恩田陸

映画化もされた『蜜蜂と遠雷』の作者、恩田陸さんの作品です。丘の上にある家に起こった話が連なります。各話はだれの視点から描かれているのかを考えてみるのも面白いです！不思議で奇妙なとある家の歴史を楽しんでほしいです。

**『三日間の幸福』**三秋縋

原題『寿命を買い取ってもらった。一年につき、一万円で。』未来を悲観して寿命を売り払った自暴自棄な主人公と、それを冷たく見つめる「監視員」のミヤギがほんとうの幸福を見つけるまでの話。

**『面倒だから、しよう』** 渡辺和子

毎日を楽しく丁寧に生きるためのヒントがたくさん紹介されています。ハッと気づかされる内容が多く、疲れた時に読むと心が落ち着く本です。

**『自閉症の僕が飛びはねる理由』** 東田直樹

声を出せるし、文章も書けるけれど、人と会話をすることが難しい。そんな自閉症という障害をもって生まれた 13 歳の著者がおくる世界的ベストセラー。自分とはちがう世界の見方を知りたい人へ。

**『先生はえらい』** 内田樹

「なぜ先生はえらいのか」、教育とはそもそもどういう営みなのかを中高生を読者対象にして書かれた本です。教師を目指す若者にはぜひ読んでもらいたい一冊です。

**『もしも高校四年生があったら、英語を話せるようになるか』**　金沢優

英語が話せない英語教師、桜木真穂が真の英語教師を目指して奮闘する物語。クセが強い登場人物たちとの触れ合い（戦い）を通して真穂が成長していく様子がおもしろおかしく、感動的に描かれている。英語学習のヒントも盛りだくさん。

**『やっぱり英語はおもしろい』**　　宗宮喜代子

英語学者が身近な英語の話題を使って英語を解説する読み物。マクドナルドで使われている英語など、なじみ深いものが多く、英語を勉強せずに好きになれる。

## 高校生向け

**『アルジャーノンに花束を』**ダニエル・キイス

幼児の知能しかない主人公に、頭をよくできる手術の話が持ちかけられる。天才になって、得たもの、失ったものとは。人間のリアルを見つめる、考えさせられるお話。

**『神の火』**　　高村薫

原発襲撃のテロリストを描いたサスペンス小説。福島の原発事故より 10 年以上前に、原発の脆弱さを見抜いていた筆者の力作。とある電力会社の幹部が原発の緻密な描写に驚いたそうです。

**『結婚の奴』**能町みね子

「自称」マンガ家であり、トランスジェンダーを公表している能町みね子さんが、新たな「結婚」の形を追い求める過程の記録です。高校は、生活や考えが偏った集団でありがちですが、そのどこにも存在しない知らない世界があるんだな、と知ってほしいです。女の子（もちろん男の子）はこうあらねばならない、と社会からもおのずからも縛られることがありますが、これを読んで、なあんだ、もっと自由でいいんじゃない？と思ってもらえると嬉しいです。

**『熱帯』**森見登美彦

誰も結末を知らないという不思議な『熱帯』という本を探す物語。本の中で本の話をしているという複雑なストーリーに自分が今どこにいるかわからなくなるような不思議な感覚になる。

**『吉祥寺の朝日奈くん』**中田永一

オトナの恋愛なのに、どこか甘酸っぱく、でももちろん苦さも残る不思議な味の小説。ちょっと背伸びした恋に憧れるあなたへ。

**『恋愛曲線』**小酒井不木

冷たいふりをした恋愛物語。なにやら小難しい動物実験の話が続くけれど、ちょっとふんばって最後まで読んでほしい。ちなみに電子辞書のなかに入ってます。

## ※ 年齢問わず ※

**『アイスクリン強し』**畠中恵

江戸から東京へと変わった明治初期、居留地の外国人に育てられた真次郎は念願の西洋菓子屋を開く。だが、開店したそばから顔見知りの巡査たちの騒動に巻き込まれて…。前日譚『若様組まいる』、続編『若様とロマン』もおすすめ。

**『裏庭』**梨木果歩

友だちのおじいちゃんから聞いた、噂のバーンズ屋敷に踏み入れた主人公てるみ。廊下にある奇妙な鏡を通り、そこで出会った仲間たちとともに、旅をします。自分のコンプレックスや過去の嫌な記憶と向き合いながら様々な生き物と出会うてるみを見届けてみてください。

**『きみの友だち』** 重松清

「友だち」ってなんだろう、友だちとどういうふうに関わるべきか、ということを考えさせられる本。こういう些細なことからいじめって始まるんだなあということを突きつけられるシーンも。クラスのいろんな子の目線で物語が進んでいくので、読書が苦手な子も飽きずに読めると思います。

**『鉄道員』**浅田次郎

「……おめえ、なして嘘ついたの」娘がなくなった日も、妻を亡くした日も駅に立ち続けた無骨な男に起こった奇蹟。身寄りのないちえ子に盆に祖父が会いに来る『うらぼんえ』もおすすめ。短編集。

**『時計坂の家』** 高楼方子

千葉さんのイラストが印象的。怪しげでいて懐かしさを感じます。表紙の少女はどこへ向かっているのでしょう。裏表紙にいるまるであの異国のお人形のような衣装の少女たちは誰なのでしょう。「時計坂の家」と呼ばれる祖父の家を中心に繰り広げられる冒険の物語です。本来の推奨学年は小学校高学年で、作者の高楼さんも児童書で有名な方ですが、中高生にもお勧めします。

**『西の魔女が死んだ』**梨木果歩

優しい祖母と中学生のまいが一緒に過ごした穏やかな日々の記録。今でいう、丁寧な暮らしをする祖母との暮らしは文章からあたたかな日差しとさわやかな空気が伝わってきます。春の陽気に似合う一冊です。

**『ボッコちゃん』** 星新一

バーにいたステキな人が、ほんとうはロボットだったら？かたにのったオウムが人の代わりに話すせかいだったら？ふしぎでゾクッとするお話がたくさんつまっています。

**『翻訳できない世界のことば』** エラ・フランシス・サンダース　前田まゆみ

モンガータ。それはスウェーデン語で「水面に映った道のように見える月明かり」をあらわす一つの単語。一言で翻訳することができない世界じゅうの美しい単語を情緒あふれるイラストとともにぎゅっととじこめた絵本です。

- **英語の本**

## 高校生向け

***Harry Potter and the Philosopher's Stone*** J.K. Rowling

叔母の家で暮らしていたハリーは突然、自分が魔法使いであったことを知る。ハリーは魔法使いの学校である「ホグワーツ魔法学校」に入学するが…。予想外に長くなった春休み、この名作を原書で読んでみよう！

***The Reader***(English Edition)　Bernhard Schlink

ナチス時代のドイツが舞台。年上の女性に恋した「僕」は戦後、戦犯として法廷に立たされたその彼女と再会する。彼女の秘密を暴露しなければ、彼女を助けることができない。1 章が短く読みやすい恋愛小説です。英語の原書に挑戦してみよう。映画化もされました。DVD もおすすめですよ。

***Wonder*** R.J.Palacio

映画公開もされた小説。家族の絆や主人公の葛藤を通じて送られていく感動の物語。

***I Thought My Father Was God*** Auster, P.

著者がラジオで呼びかけ、全米から集められた全 179 編からなる物語集。家族・夢・思い出の品・戦争などジャンルごとにまとめられていて、かつ短いので読みやすい。高校英文法を習得していれば読み方でつまるところはないので、語彙増強に丁度良いと思う。（中には過去に大学入試に出題された作品も・・・）

（最終更新日　2020 年 3 月 20 日）